

桜大臣の姫君

第五回

森谷明子

川野隆司 絵



〈前号のあらすじ〉

那珂姫の父、桜大臣の病に臥し、一族は窮地に。姉の桜女御の行方は、未だに不明。生まれたばかりの三の宮は、政敵皇后の養い子に。そんな折、皇太子が二の宮を訪う。那珂姫は、皇太子から三の宮生母の死は、桜女御の呪いのせいという噂を知らされる。秋祭の頃、皇太子の使者から桜女御の居所を告げられた。皇太子を介して会った姉から出家の真相が、明かされる。

「こういうのを手づまりというのよね」

那珂姫は半ばやけになって声を上げた。那珂姫のお目つけ役を自任しているもえぎがとがめるように見たが、べっにかまうことはない。

今、後宮の桜女御の御殿には、ほかに誰もいないから。那珂姫はついさっき、夜闇にまぎれてこっそり、もえぎを